

---

もともと「トランスパーソナル」は - 本書の第2章に詳しく述べられているように - - 米国の新しい心理学の学会組織として誕生した「トランスパーソナル心理学会」の創設(1969年)によって正式に使用されるようになった言葉である。つまり、「トランスパーソナル」は、本来、心理学や精神医学の専門家による研究の発展を目的とする学術的活動として始まったものなのである。この経緯により、米国では、わが国に見られるような「一般向けのトランスパーソナルのわかりやすい入門書」のようなものは存在しない。「入門書」として公刊される書物は、必然的に一般の読者を対象にしたものとなるが、「トランスパーソナル」は、いま述べたように、新しい学問や研究分野を切り開く学術的努力を第一目的とする活動であり、さまざまな領域にいる専門家たちによって学問的に積み上げられていく活動だからである。

もちろん、入門書や一般向けの活動は非常に重要な活動である。実際、わが国でのそれらの努力は、賞賛に値する大きな成果をもたらしたと言うべきであろう。しかし、その本来の内容である研究活動や学問的努力が中心に据えられないまま脇に置かれてしまっただけでは、これまで歴史を積み上げてきた「トランスパーソナル」の根本的精神とも言うべきものが失われるということは、強調しておかねばならない。米国では、先に述べたように、容易に一般向けとなりがち傾向や不要な誤解を避けるための努力が長い間慎重に積み重ねられてきた結果として現在の状況が成立しているものであり、そのことは決して忘れられてはならないはずだ。本書はその貴重な成果の一端として位置づけられる書物である。本書の、そして「トランスパーソナル」の精神は、こうした歴史的歩みのなかにあることをぜひ汲み取っていただきたいと思う。

本書は Textbook of Transpersonal Psychiatry and Psychology (Basic Books, 1996)の翻訳である(なお、わが国への導入を考え、日本語版のタイトルの表記は「トランスパーソナル心理学・精神医学」となった)。私は本書の企画を10年ほど前に問いたが、当時、カリフォルニア大学サンフランシスコ校の医学部のレジデント(研修医)・教育プログラムに「トランスパーソナル精神医学/心理学」が加えられることになり、そのために教科書が必要になったことから企画されたのが本書である。この企画の性質上、本書は、すべて現役の教育職にある学者たち(全著者が博士号取得者)によって執筆されたものになっているが、まさにここに、今のわが国とは大きく異なる米国の「トランスパーソナル」の着実な発展成果が証拠として示されていることをぜひ多くの方々に知っていただきたい。本書は、こうした執筆陣がトランスパーソナルという学問の必要性を強く表明し、その幅広い分野をコンパクトにまとめているという点で大きな価値をもつものである。そして、単なる教科書という位置づけにとどまらず、トランスパーソナルを知るには最も信頼のおける書物の1つとして米国で高い評価を受けている。

ただ、コンパクトとは言っても、トランスパーソナルの全貌を網羅しようとした取り組みである限り、非常に大部の書物である。今回日本版への翻訳に当たっては、出版に際する諸事由によりその

---

---

全訳はやむなく断念せざるをえず、原書から数章を削除したのとなってしまった。それら各章については、ここにタイトルと著者名を記しておく。削除章は、「意識・情報理論・トランスパーソナル精神医学」(ジョン・R・バティスタ)、「カバラとトランスパーソナル精神医学」(ザルマン・M・シャクター・シャロミ)、「北米先住民の癒し手たち」(ドナルド・F・サンドナー)、「現代物理学とトランスパーソナル精神医学」(ジョン・R・バティスタ)、「宗教的な人々のトランスパーソナル心理療法」(ドゥワイト・H・ジュディ)、「幻覚剤心理療法」(ゲイリー・ブラヴォー、チャールズ・グローブ)、「前世療法」(ロナルド・W・ジュー)である。これらについて関心をお持ちの方は、ぜひ原書に当たっていただきたい。

なお、本書の日本版の削除章については、編者の一人であるブルース・スコットン博士との度重なる意見交換によって決定された。本書の翻訳作業は、米国での出版直後から数年にわたって行ってきたが、彼からは、その過程で時に応じさまざまに、日本の状況や読者を配慮した適切なアドバイスをいただいたことに、この場をかりて深く感謝の気持ちを表したい。

『トランスパーソナル心理学・精神医学』 B・W・スコットン他 日本評論社

